

クラス番号	621	担当教員名	片岡 幸雄
テーマ	福祉・保健・医療の変化のなかでMSWの役割と課題を考える		
著書・論文	「福祉・介護に求められる生活アセスメント」(共著) 中央法規 2007年		
研究課題等	「医療のなかでいかに社会福祉を実践するか～医療ソーシャルワーカーの揺らぎ～」『医療ソーシャルワーカー』93号 愛知県医療ソーシャルワーカー協会 2006年		
	研究課題：医療ソーシャルワークの専門性と特殊性 生活アセスメント 地域包括ケアシステム		

ゼミナール概要

キーワード： 医療ソーシャルワークの専門性と特殊性 生活アセスメント 地域包括ケアシステム

目的、内容、方法等： 医療ソーシャルワーカー（以下、MSWという）の業務は多様化してきています。「施設」から「地域」へ、「医療」から「介護」へ、地域連携の促進（地域完結型医療）による在宅療養、介護・看護の充実、「地域」を基礎にした「在宅」重視の『地域包括ケアシステム』の構築が喫緊の課題となっています。

そこでは患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービスを提供するために、MSWの「**本来の役割**」とそれぞれの機関・施設における「**（個別の）役割**」を担っていくことが求められます。

こうした取り組みにおいて求められることは、MSWがメディカル、コ・メディカルスタッフとお互い（保健、医療、介護、看護）の専門性が生かし、尊重し合えるメンバーとして**リエゾン**（連携）を進め**シームレス**（継ぎ目のない）な援助を展開すること。何よりも退院・退所後の患者・家族の「生活」を見据えた援助が必要です。

患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」なかで、ニーズを発見し必要な援助をしていくことがMSWの役割であり、**医療ソーシャルワークの基本**であると考えています。

MSWとして援助の軸をどこにおくのか、このことが非常に大きな意味をもっています。たんにサービスを当てはめる、結びつけることではありません。患者・家族に寄り添い、その人の「生活」を丸ごととらえ、そこから援助を展開することを重視することです。

患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」と書きましたが、対象は患者とその家族であり、その世帯の生活を丸ごと捉える。現在から過去にさかのぼり、過去をふまえて現在から未来を展望する。生活を歴史的・構造的にとらえられるようにすること。そこからどのような援助が求められているのか明らかになっていきます。つまり、アセスメント力を培うためのトレーニングです。

ゼミの進め方

- ① それぞれが学びたいテーマを決めて取り組むようにします。
- ② グループに分かれて病院（例：急性期、回復期リハ、療養型）見学を行います。
- ③ MSW（主にゼミの先輩）をゲスト講師に呼んで現場の話を聞きます。
- ④ 患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」ためのアセスメント「力」をつける学習をします。
- ⑤ 3年の終わり頃から卒業論文の作成準備に取りかかります。
- ⑥ 4年には社会福祉士国家試験対策等も行います。
- ⑦ 3年・4年の間の春休みには合宿を計画します。

担当教員からのメッセージ

MSWとしての30余年の現場での経験と、これまでのゼミにおける学生との交流（学習、合宿など。2016年度で20期になります）を通して今回のゼミでの課題を考えました。MSWになりたいと思っている学生、MSWに関心・興味のある学生と一緒にMSWの役割と課題を学べたらと思っています。そして、ゼミで学ぶことを通してMSWをめざしてもらいたい。ゼミ生が「**自主性**」と「**主体性**」を培いながら発揮できるようなゼミ活動をめざします。主役は“あなた”です。